

# オンラインデータベースを利用した 学校ホームページ群の客観的評価 その2

- 客観指標による全国小学校ホームページ悉皆調査 -

豊福晋平<sup>1</sup>

概要)学校ホームページの情報提供を行っている「i-learn.jp」サイト<sup>2</sup>では、2003年6月より「第1回全日本小学校ホームページ大賞」選考過程の一環として、全国小学校ホームページの悉皆調査を行った。調査には社会人ボランティア約500名が関わり約12000件のサイトについてオンラインデータベースと客観指標を用いて評定を行うものである。本稿では、調査コンセプト、客観指標の観点、および、得られた調査結果を明らかにする。

(キーワード)インターネット、学校ホームページ、機能評価、コンテンツ評価、データベース

## はじめに

国際大学 GLOCOM では、教育情報化研究の一環としてホームページサイト「i-learn.jp」(旧:キッズページ)を1995年から運営している。主要なコンテンツである「日本の学校」は、全国(一部海外を含む)のK-12(幼稚園・保育園から高等専門学校まで)の学校ホームページ情報約22000件を提供しており、国内の同種リンク集サービスの中では最大規模を誇る。サイトではURL情報に加え、各学校のページ更新状況が把握できるほか、学校側から書き込み可能なニュース欄を設け、学校の情報発信活動の支援を行ってきた。

2003年4月より、株式会社損害保険ジャパンが大会実行委員会事務局をつとめる「全日本小学校ホームページ大賞」<sup>3</sup>(通称:J-KIDS大賞・大会選考委員長は村井純慶応大学教授)では、国際大学 GLOCOM は企画立案段階から関わるとともに、i-learn.jp サイトを選考情報集約のためのセンターとし、選考プロセスの重要な機能を担っている。

## 学校ホームページの課題

学校にとってのホームページとは、社会一般に対して、ほぼ唯一かつ効果的広報手段であり、情報開示によって保護者・地域の理解と支持を獲得し、円滑な学校運営を行ってゆくために欠かせないツールとなりつつある。

しかしながら、学校ホームページをめぐる状況は決して明るいものではない。文部科学省の調査によれば、平成15年3月時点の小学校ホームページ公開率は54.5%<sup>4</sup>だが、

i-learn.jp が独自に巡回収集する学校ホームページ更新履歴によると、公開サイトの約半数は年に一度も更新されていない<sup>5</sup>。

また、多くの学校では、一部教員にサイト運営のために相当な負荷がかかっているのにも関わらず、内外では認知や評価が十分でなく、自治体教育委員会や学校自体も情報発信への意義付けはいまだ明確ではない。このままでは、学校ホームページそのものが形骸化してしまう可能性も高いといわざるをえない。

## 調査の目的

このような状況に鑑み、研究的側面からは、的確な現状把握、運用モデルの構築が必要とされるとともに、社会的には、着実に成果を上げているケースを表彰することで、普段は目立たない学校ホームページ運用に注目を集める必要が生じている。

J-KIDS大賞では、これらを達成するために従来のコンテストとは異なったアプローチを採ることとした。

選考の第1段階としては、ホームページサイト全体を対象とした内容・機能面の評価を客観指標化し、応募を前提としない勝手選考方式(悉皆調査)を通じて、各都道府県10校の表彰対象を選出する。

すでにi-learn.jp側で収集したURLデータを活用し、主催者側が一般公開されているホームページに対してアプローチすることで、作品出展にかかる学校側の余計な負担を取り除くとともに、とくど埋没しがちなサイトを発掘するという意図がある。

さらに、選考過程については、数値指標や集計結果等を情報公開する形とした。これらの情報をもとに各自で自己採点してもらい、相対的位置をフィードバックしてもらおうとするものである。

このような勝手選考方式は、ごく小規模なトライアルを除き、国内教育分野では例がないが、海外もしくは企業・政府・自治体を対象とした研究調査では決して珍しくない。むしろ、いつでもアクセス可能なホームページの特長を最大限に活かした方法であるといえる。

### 客観指標の観点

ホームページ評価のための指標は、利用者として児童生徒・保護者・地域一般・教育関係者を想定し、それぞれのニーズと将来展望に基づいた詳細な判断基準(2段階～3段階で評価)を作成した。コンテストという性格上、ニーズレベルから引き出された項目であるため、現状の学校ホームページでは該当例が稀な要求水準高いものも含まれている。さらに、項目重要度に応じて1～3倍の傾斜配点を行い、分野別の尺度とした。

表1のとおり基本(名称・住所・連絡先等)、教育(教育方針・研究・報告書等)、運用(更新頻度・履歴等)、広報(学校生活・学校便り・作品等)、機能(インタフェース・レイアウト・デザイン等)、総合(利便性・差別化等)の6尺度から構成され、多様な学校ホームページの個性が網羅的に把握できるよう工夫されている。最終的には、これら尺度の総合計によって順位を確定させる方法とした。

### 調査方法および集計システム

今回の調査対象は、インターネットでホームページが閲覧可能な約12000校である。全国(一部海外を含む)の小学校および小学部をもつ併設校、私立学校、海外日本人学校、特殊教育諸学校等が含まれる。また、統廃合・休校により学校自体が存続されていない場合でも、学校ホームページ自体が継続的運用されている場合は選考対象とした。

刻々と変化するホームページをできるだけ公平に評定するため、評定作業は2003年6月から約1ヶ月で完了させる必要が生じた。

これらのかなり大量な調査対象の評定を短期

間で行うためには、効率的情報集約のためのシステム構築と相応の作業人員確保が不可欠である。

まず、i-learn.jp サイトでは、学校ホームページ

表1 2003年版 J-KIDS 大賞評価指標

カテゴリ	評価観点	評価項目
基本	基本情報	トップの学校正式名称(市町村省略は不可)
		住所
		電話・ファックス
		連絡先メールアドレス
		交通手段・アクセスマップ・周辺地図
	学校概要	校長メッセージ(挨拶)
		校歌
		沿革・学校の歴史
		施設案内
		校区・地域紹介
保護者向け情報	職員紹介・職員名簿	
	表彰・受賞記録	
	緊急時対処方法・災害対策マニュアル等	
	よくある質問(Q&A)	
教育	教育計画	学校教育目標・教育方針
		スクールカレンダー(今年度行事予定)
	教育研究	通知表・評価ポイント解説
		指導計画・シラバス
運用	新着情報・更新履歴	更新間隔が2ヶ月以内
	おしらせ・ニュース	内容更新が2ヶ月以内、年間10項目以上
	更新履歴(i-learn.jp)	90日間の更新回数が19回以上
	制作運用	運用担当者・責任者の明記 委員会体制による制作運用 原簿による編集取材組織
広報	広報資料	学校たより(ハックナンバーあり) 保健・図書・給食の情報・便り 校長・教員のコラム
	記録	学年・学級ページ・学級通信 活動記録・学校生活紹介 委員会活動記録・紹介 クラブ活動・部活動記録・紹介
	協働・情報拠点	地域との連携・学習・行事への参画
	情報蓄積	PTA情報 卒業生・同窓会情報 過年度の記録資料蓄積
	児童の参加	児童作品・レポート・ページ・学習成果(学習活 児童による学校生活・児童会・部活動紹介 (学校新聞の情報発信))
	機能	ページデザイン
ナビゲーション		トップページ・上位階層へのリンク・ボタン サイトマップ・検索機能
双方向性		掲示板・ゲストブック、オンラインアンケート メールマガジン等
総合		子供に対する配慮
	利便性有用性	おもに保護者が児童の学校生活に必要な情報を把握できるよう配慮されているか
	親しみやすさへの努力	多様な利用者を歓迎し、学校教育活動への理解と支持を図る積極的姿勢が見られるか
	独自性差別化	サイトに学校独自性を出そうとする工夫が見られるか、またそれにふさわしい内容があるか

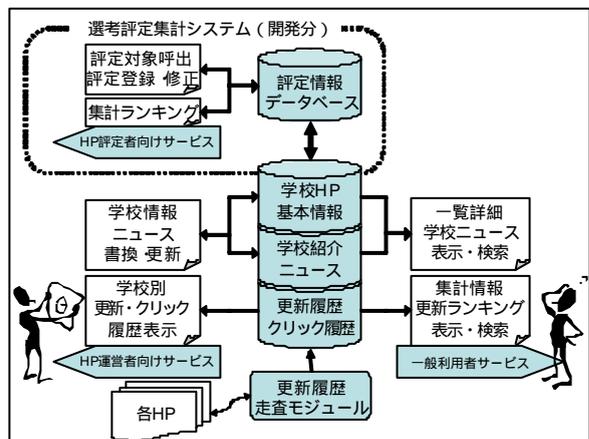


図1 i-learn.jp 選考評定システム



図 2 評定入力画面の例

表 2 各尺度の記述統計

尺度	平均値	標準偏差	範囲(尺度最大値)
基本	12.79	5.612	0 ~ 34 (38)
教育	5.55	4.742	0 ~ 28 (28)
運用	2.04	2.159	0 ~ 15 (18)
広報	7.74	7.369	0 ~ 40 (40)
機能	8.12	3.352	0 ~ 16 (16)
総合	5.13	3.980	0 ~ 16 (16)
総合計	41.37	18.708	0 ~ 118 (156)

表 3 尺度間の相関係数

	基本	教育	運用	広報	機能	総合
基本	1	0.412	0.322	0.375	0.283	0.333
教育	0.412	1	0.332	0.424	0.219	0.348
運用	0.322	0.332	1	0.428	0.196	0.324
広報	0.375	0.424	0.428	1	0.217	0.410
機能	0.283	0.219	0.196	0.217	1	0.393
総合	0.333	0.348	0.324	0.410	0.393	1

ジの URL を提供しているデータベースに選考評定データの集計システムを追加、これを相互連携させることによって、ボランティア作業の評定対象校検索、評定値入力・修正、集計ランキングの大半をホームページ上で行えるようにした(図 1-2)。これによって、評定対象の不安定要素(移転、消滅によるリンク切れは1日あたり十数件にのぼる)に対するメンテナンス性、評定作業に際して時と場所を選ばない柔軟性を確保するとともに、データ収集・集計作業にかかるワークロードを大幅に低減させている。

また、大会実行委員会事務局では、社会人のボランティアを募ったところ、最終的には約500名の協力を得ることができ、一人あたり30校を目標として評定を依頼することとなった。作業自体は探索と判断を要するため、時間がかかるが(内容に応じて1校あたり10~30分程度)、ホームページを用いた柔軟な方法が、多数の参加を得ることにつながったと思われる。

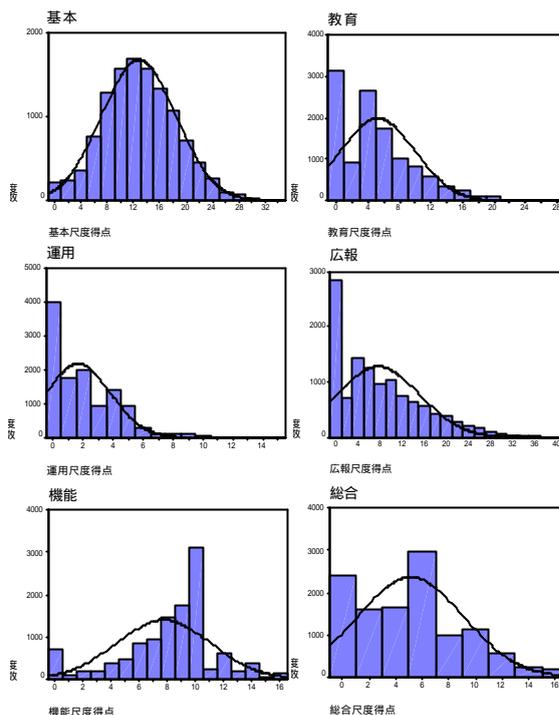


図 3~8 各尺度得点の分布

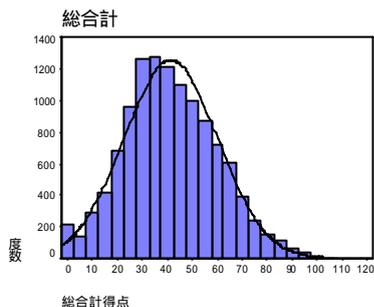


図 9 総合計得点の分布

## 結果および考察

本稿提出の2003年7月現在では、評定データのチェックが完了していないため、暫定的な記述統計結果を以下に示す。URL消滅等を除く有効評定数は11810件であった。

各尺度の平均・得点範囲(表2)とヒストグラム(図3~8)についてみると、尺度によってかなり傾向が異なることが明らかである。基本・機能は、比較的平均が高く、正規分布に近い形となっているのに対して、教育・広報・運用の分布は著しく0点付近に偏っており、高得点になるほど分布はわずかである。

すなわち、ホームページに備わるべき基本的項目や機能デザインに関しては、すでに一応のレベルを備えるサイトが多い(評定条件が易しい)が、教育研究や広報資料といった内容面、および運用体制・更新状況では十分でない評

定条件が厳しい)ことが分かる。

表 3は、各尺度間についてピアソンの相関係数をまとめたものである(いずれも両側検定 1%水準で有意)。これによると、機能と教育・運用・機能・広報との相関が0.196 から0.283 と比較的低いのを除けば、おおむね 0.32 から0.43 の弱い相関を持つ。つまり、内容面の充実においては、互いの尺度がある程度の関連性をもっているが、機能デザイン面と内容面との関連はそれほど明確ではない。

また、総合計得点の分布(図 9)と範囲(0~ 118)から分かることとしては、ほぼ正規分布であるが、本来であれば 156点が最高点であるのに、実際 100 点以上をつけたサイトはわずか 19、80 点以上でも324に過ぎず、平均が40点レベルにとどまっている点が特徴的である。コンテストを目的とした調査であるため、各サイトの個性や差別化を著しく際立たせるための項目や配点が影響しているものと思われる。

## 結び

今後は、各学校が自己採点できるように、評定指標・解説とともに各尺度・総合計得点のパースentaseをホームページ上で公開する予定であり、また、本稿発表時には、すでに各都道府県の代表を含むベスト 10 が確定しているため、上位のサイト傾向を具体的に報告できる見込みである。

さらに、得られた評定データに関しては統計処理を行い、改めて全体的傾向とサイトの分類等について明らかにするものとした。

---

<sup>1</sup> Shimpei TOYOFUKU 国際大学グローバルコミュニケーションセンター e-mail: toyofuku@glocom.ac.jp

<sup>2</sup> i-learn.jp サイト<http://www.i-learn.jp/>

<sup>3</sup>第 1回全日本小学校ホームページ大賞大会ホームページ <http://www.j-kids.org/>

<sup>4</sup> 文部科学省 平成 14年度 学校における情報教育の実態等に関する調査結果 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/15/07/03070501.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/07/03070501.htm)

<sup>5</sup> 統計情報から見る学校情報化の現状、情報処理学会研究報告「電子化知的財産・社会基盤」2002 年 No.018、<http://www.ipsj.or.jp/members/SIGNotes/Jpn/28/2002/018/article005.html>

<sup>6</sup> キッズページ・Best School Web Site 1996Summer について、<http://www.i-learn.jp/eduwoods/bestweb/>